

ALFA ROMEO

これが チャンピオンマシン! アルファ156 スーパーツーリズム

大解剖:156CIVTグループN

SCOOP!!!
156オートマチック
&シーケンシャル



“ラテンの熱い血”をさらに熱く!!



イタリア現地試乗

アルファ166

これからが旬? アルファ155大特集

カップカー大研究 / '92~'98日本仕様の6年間
大公開 モディファイドカーファイル in JAPAN



BIALBERO

GTV

イタリア本国で仕上げ
持って来ちゃうのだ!

古いランチアのメンテやデルタ・インテグラレのチューンで知られる静岡ビアルベロは、アルファについても造詣が深い。たとえば、お客様がこんな風に個人輸入をやったとしても、ちゃんサポートしちゃうのだ。



イタリアに強力な
コネクションがあるなら
こんな方法もある



①モモ仕様はステアリング、シフトノブ、サイドブレーキレバーなど、ドライバーが手に触れるところは、基本的にモモの手になるものに代わる。ステッチが印象的。②ボディカラーとのコーディネートがよく、どこかスコ味も感じさせて、なかなかのホイール選択。テクノマグネシオと205/45ZR17のP-ZERO、アシンメトリコという組み合わせ。③スミマセン。メーカーが分かりませぬ……。④まあ、多少でも飛ばす気なら、ペダル・エクステンションの装着は当然!

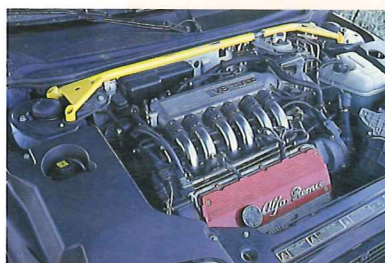
ののだが、今回はまたまそういう展開になったという。わずかな時間だが試乗させてもらうと、ターボのブースト効果が印象的。街中では少し乗りにくいかなと思わせたが、「このクルマ、オーナーは仕事で静岡と東京を行き来するためにだけ、使っているようですね。東名オンリーということです。ですから、エンジンはいまの状態のほうがいいんじゃないでしょうか」と、ビアルベロの鳥羽氏は語る。もちろん納得してしま

こんなことをいっては何んだが、いつの時代も本国仕様というのは魅力的だ。輸入元のお仕着せではなく、自由にオプションが選べたりして、自分の好みのクルマに仕立て上げられるし、そうすると日本では稀少性がクローズアップされることになる。もし、イタリアにクルマがよく分かる知人がいて、地元のディーラーに発注をかけられるとしたら、これはもう絶対にやらない手はない。

このブラックメタリックのGTVのオーナーは、そうした方法、つまり個人輸入でこのクルマを入手している。しかも日本へ出す前に、あらかじめ気になるところはチューン。サスはアイバツハのスプリングとコニのショックの組み合わせで、このあたりは日本でもよくやるが、コンピュータとエキゾースト系をチューンし、そこそこのパワーも手に入れてしま

まっているのだ。本国でやればコストはそうかからないだろうし、これはなかなかウマイやり方だ。ビアルベロの鳥羽氏は、発注に関してはタッチせず、日本に輸入されてからの諸々の作業を請け負う形。もちろん、鳥羽氏自身、イタリアに発注をかけられるのだが、今回はまたまそういう展開になったという。

▶モモ仕様は、シートがレザーとなって豪華さを増す。輸入当時、正規では設定されていない仕様だったわけで、オーナーのコダワリぶりがかがえる。



◀ヨーロッパでのライトチューンで、パワーは、220ps前後か。ちょうどいいところにとどまっている感じだ。